

## 平成 24 年度第 1 回診断評価基準委員会議事録

開催日時:平成 24 年 4 月 20 日 7:30-8:30

開催場所:石橋文化会館 2F 会議室 B

### 議題

#### 1. JOABPEQ、JOACMEQ マニュアル本について

笠井委員より、マニュアル本が完成し、本学会会員への配布が終了したことが報告された。

#### 2. JOACMEQ 健常者調査について

田中委員より、調査が終了し全体として 1644 名のデータが収集できたことが報告された。

福井アドバイザーより、解析途中経過が報告された。

- ① 90 歳代の人数が男女合わせて 15 名と少なく、ばらつきが大きいので、それをどうするか(標準値に入れて意味があるかどうか)検討中である。
- ② 年代とも極端にスコアが悪い人(0 点の人)がいるが、90%の人数が入る値が標準値の目安となる。
- ③今夏までにまとめた。

#### 3. プロジェクト研究進行状況について

##### ①「腰椎変性すべり症に対する手術的治療法の有用性に対する JOABPEQ を用いた多施設前向き研究」

加藤圭彦先生が一身上の都合により委員を辞任することとなった。川上担当理事より、「プロトコールは既に完成しているので、参加予定の各施設はデータ収集を開始して欲しい」との要望が出された。

##### ②「腰椎変性側弯症の健康関連 QOL 低下に及ぼす X 線学的(脊柱変形)パラメータを検討する多施設横断的臨床研究」

種市委員より研究計画書の提示があった。X-P 計測は外部委託を検討していること、読影者は医療関係者ではない者に事前トレーニングを行うこと、費用は約 300 万円を見込んでいること、委託する企業は既に候補があるが他に X-P 計測できそうな企業があれば情報を頂きたいこと、が報告された。

福井アドバイザーより、「撮影マニュアル、読影マニュアル、トレーニング法を確立すれば将来的に同様のプロジェクトに応用可能である」との提言があった。

##### ③「(異なる施設の)術者によって頸椎症の手術成績(JOACMEQ)に差があるか」

細野委員より、厚生年金、関西労災、長崎労災は倫理委員会が終了し既にデータ収集に入ったこと、安佐市民は倫理委員会申請中であること、総合脊損センターは参加表明してくれていること、事務局の人件費が予算として必要であることが報告された。

#### 4. 学会主導研究における研究協力者に対するインセンティブについて

紺野委員長より、「(脊椎脊髄外科)指導医資格申請(更新含む)の際、研究1例につき症例数10例に換算する」という案が理事会で承認されたことが報告された。

#### 5. 予算要求

JOABPEQ 健常者調査について

橋爪委員より、JOACMEQ 健常者調査に習い次のとおり計画していることが報告された。

- ①全国約20施設の整形外科診療機関に委託する。
- ②各施設あたり20歳代から70歳代および80歳以上の7階層の男女各5名、計70名、総数1400名(以上)の調査を行なう。
- ③和歌山県立医科大学の倫理委員会が終了次第、全国の施設にて倫理委員会を通して頂く。
- ④アンケートは本年12月までに終了する。
- ⑤JOACMEQ 調査に協力して頂いたエム・エム・ティー社に問い合わせたところ、今回の事業には協力が困難であるとの返事であった。
- ⑥予算はアンケート協力者へのインセンティブ(JOACMEQと同じ規模なら約170万円)、印刷代、郵送費、事務員への謝礼などが必要となる見込みである。

紺野委員長より、「今回は学会から予算が確保出来ているので、和歌山県立医科大学に事務局を設置してプロジェクトを進めて頂きたい、JOACMEQに加えてVASも収集して欲しい」との要望があった。

#### 6. その他

次回委員会について

担当理事が川上先生から紺野先生に変更となった。

本委員会の委員はおそらく現メンバーのままであるが、変更もあり得る。

新メンバーが確定後、可能であればJOA総会中に次回委員会を行う。